

2023 年度 医療科学部 IR 報告書

— 2022 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価) —



藤田医科大学 | R推進センター
医療科学部 | R分室

2023 年 12 月 28 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部 IR 分室

2023 年度 医療科学部 I R 報告書

2022 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2023 年度 医療科学部 IR 報告書

「2022 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部 I R 分室では、2022 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2023 年 12 月 28 日

2023 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部 I R 分室

武藤晃一、塩竈和也、坪井良樹、白川誠士、五十川由枝、島向健太

目 次

1. 分析結果の概要.....	1
2. ディプロマ・ポリシーについて.....	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度.....	5
3-1) アンケート調査方法.....	5
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析.....	7
3-2-1) 学部全体としての分析	13
3-2-2) 学科間の比較	13
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析.....	16
3-3-1) 医療検査学科	16
3-3-2) 放射線学科	18
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度.....	20
4-1) アンケート調査方法.....	20
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	20
4-2-1) 医療検査学科	20
4-2-2) 放射線学科	24
5. 参考資料	27

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2022 年度医療科学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・分析を行った。

2022 年度医療科学部卒業生を採用いただいた 130 施設にアンケート調査を実施し、80 施設から回答が得られた。回収率は 61.5%であり、昨年度調査とほぼ同様（58.6%）であった。

医療科学部ディプロマ・ポリシー8 項目に対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では 8 項目すべてにいて施設間での評価値ばらつきは小さいものであった。各評価値の中央値は「4：最低水準は習得できている」以上で、「DP6：責任行動」「DP8：コミュニケーション」は「5：概ね修得できている」であった。8 項目の回答すべてのうち、「4：最低水準は習得できている」以上の回答は 82.3%、「2：十分に修得できていない」以下の回答数はわずか 2.7%であった。評価値の平均値が高かった上位 3 項目は「DP8：コミュニケーション」

（4.7）、「DP6：責任行動」（4.5）、「DP1：専門知識」（4.4）であり、2021 年度就職者に対する調査結果と同じであった。最も低かったのは唯一平均値が 4 を下回った「DP4：国際解決」（3.8）の項目であった。これも、2021 年度就職者に対する調査結果と同じであった。

学生の自己評価によるディプロマ・ポリシーに対する到達度の調査結果と比較すると、就職先管理担当者の評価は総じて低くなる傾向を示したが、その差は-0.13～-0.52 であり、大きな相違は認めなかった。学生自己評価と就職先管理担当者の評価の平均値の差が小さかったのは「DP8：コミュニケーション」（-0.13）、大きかったのは「DP3：科学行動」（-0.52）であった。

学科間で比較すると、医療検査学科と放射線学科の卒業生に対する就職先管理担当者評価はほぼ同様な分布を示しており、大きな差はなかった。学生自己評価と就職先管理担当者の評価の平均値の差では、医療検査学科より放射線学科の卒業生の方が自己評価の平均値が高めであり、若干差が大きい傾向を示した。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者による評価は、全ての学科で各ディプロマ・ポリシーの評価の中央値は「4：最低水準は習得できている」以上であった。医療検査学科では「DP2：倫理責任」の中央値が「5：概ね修得できている」となった。

学生の自己評価と比較すると、就職先管理担当者の評価はどの項目においてもその評価値の平均値は低い傾向を示した。医療検査学科より放射線学科の卒業生の方が自己評価の平均値が高めであり、学生自己評価と就職先管理担当者の評価の平均値の差が若干大きい傾向を示した。

上述の結果は、これまでの卒業生とほぼ同様の傾向であった。よって、医療科学部の 2 学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、教育は持続的に高い質を維持できていると考えられる。ただ、ディプロマ・ポリシーの「国際解決」に関連する項目の評価が低い傾向は継続的であった。今回の調査では評価協力施設に対し、「2：十分に修得できていない」以下の回答をする場合にその理由を自由回答するよう設定した。医療科学部においては回答が得られなかったが、保健衛生学部では「就職初

年次であり、国際的視野などの点を評価できるような業務に従事させていない」という趣旨の回答があり、「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以上の評価は評価不能との意味で選択できないことから「2：十分に修得できていない」を選んでいることが推察された。今後も、自ら考え判断する力やグローバル化に関する教育を充実させていくとともに、就職先施設のニーズに応えられるような教育内容の改善を継続していく必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー（Diploma Policy）とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけておくべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2022年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表2-1に示す。

表2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

（知識・理解）

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

（思考・判断）

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

（興味・関心）

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。
-

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
- 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の医療検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3に示す。

表2-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（医療検査学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、医療検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、国際的視野を持ってグローバルに活躍する意志と積極性を有する。
 - 7) 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を有する。
-

表 2－3．放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に４年以上在学し、卒業要件を満たした学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることとなります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる。
 - 5) 医療科学における真理の探究心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野を有する。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2022年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はWeb回答方式(Google フォームを利用)とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目(計8項目)を設問として、それに対する就業者(2022年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の期間は、8月第2週に調査対象となる就職先施設へ調査依頼状(「5. 参考資料」を参照)を郵送し、9/30(土)までにアンケートへのWeb回答を依頼した。なお、本学関連病院には、IR分室員経由にて直接依頼した。

アンケート調査の対象施設を表3-1に示す。

アンケート調査項目(医療科学部ディプロマ・ポリシー)を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

医療検査学科	調査施設：58施設(第1・2・4教育病院含む)
	郵送により調査依頼する施設：55施設
	第1・2・4教育病院(3部)は直接依頼
放射線学科	調査施設：51施設(第1・2教育病院含む)
	郵送により調査依頼する施設：49施設
	第1・2教育病院(2部)は直接依頼

表 3－2. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学習内容について知識が習得できていますか？
DP 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身についていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (国際解決)	国際的な視野に立ち、倫理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？
DP 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか？
DP 6 (責任行動)	患者および住民の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていきますか？
DP 7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができるようになっていきますか？
DP 8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評価尺度（6 段階）

6：完全に修得できている
5：概ね修得できている
4：最低水準は修得できている
3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2022 年度医療科学部卒業生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

卒業生の学科	対象施設	回答施設	回収率	退職理由 の未回答
医療検査学科	78	49	62.8%	1
放射線学科	52	31	59.6%	0
合計	130	80	61.5%	1

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評価尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表 3－5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

DP1 (専門知識)				DP2 (倫理教養)			
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	13	7	6	6	7	6	1
5	19	13	6	5	24	15	9
4	38	23	15	4	41	26	15
3	9	6	3	3	7	2	5
2	1	0	1	2	1	0	1
1	0	0	0	1	0	0	0
n 80 49 31				n 80 49 31			
DP3 (科学行動)				DP4 (国際解決)			
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	5	4	1	6	4	4	0
5	25	15	10	5	11	7	4
4	36	23	13	4	32	19	13
3	11	6	5	3	29	17	12
2	3	1	2	2	4	2	2
1	0	0	0	1	0	0	0
n 80 49 31				n 80 49 31			
DP5 (生涯学習)				DP6 (責任行動)			
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	7	5	2	6	10	7	3
5	25	16	9	5	33	20	13
4	31	18	13	4	28	18	10
3	15	9	6	3	7	3	4
2	2	1	1	2	2	1	1
1	0	0	0	1	0	0	0
n 80 49 31				n 80 49 31			
DP7 (専門技能)				DP8 (コミュ力)			
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
6	6	5	1	6	15	9	6
5	28	18	10	5	33	21	12
4	34	20	14	4	22	15	7
3	9	4	5	3	9	4	5
2	3	2	1	2	1	0	1
1	0	0	0	1	0	0	0
n 80 49 31				n 80 49 31			

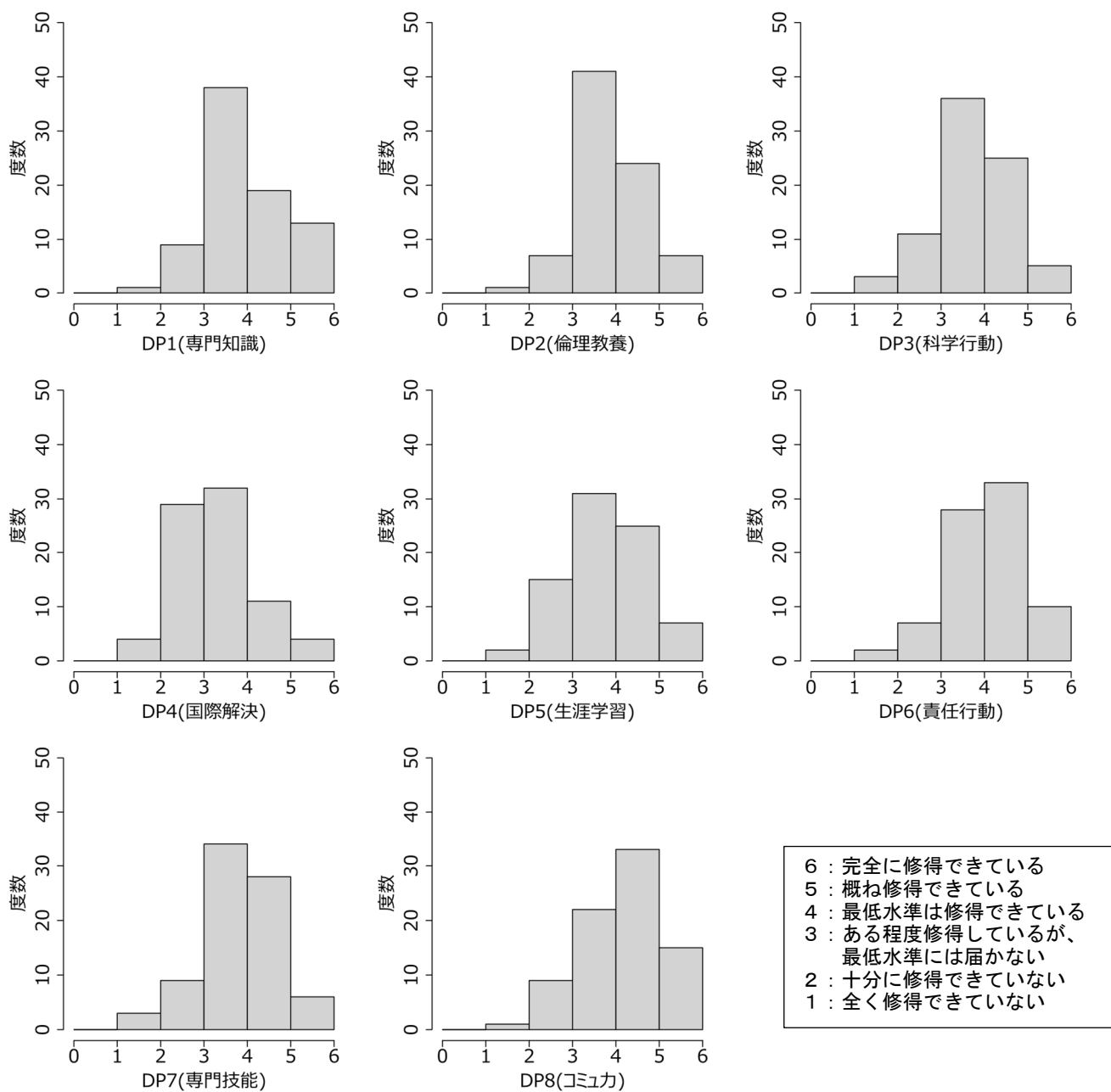


図3-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

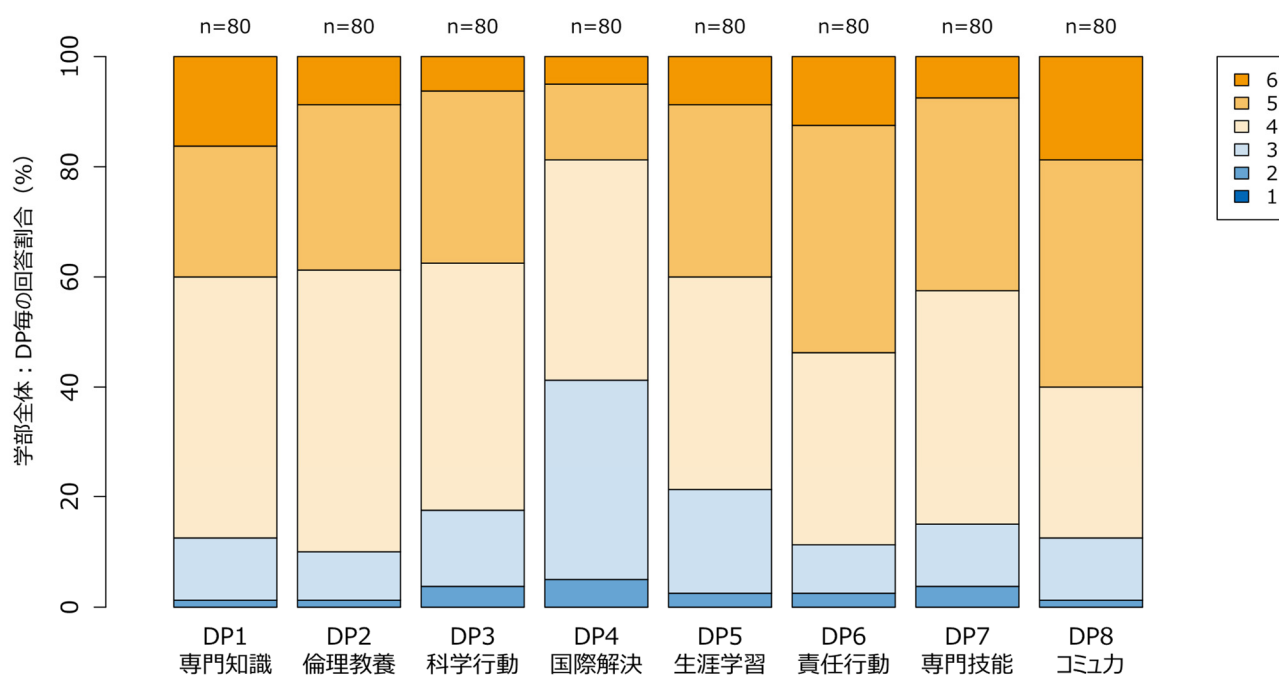


図 3－2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較した。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 3－6 に示す。

DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図 3－3 に示す。DP1～DP8 は、医療科学部 IR 分室より 2023 年 6 月 6 日に報告された「2023 年度医療科学部 IR 報告書－2022 年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）－」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表 3－4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図 3－3 に示す。

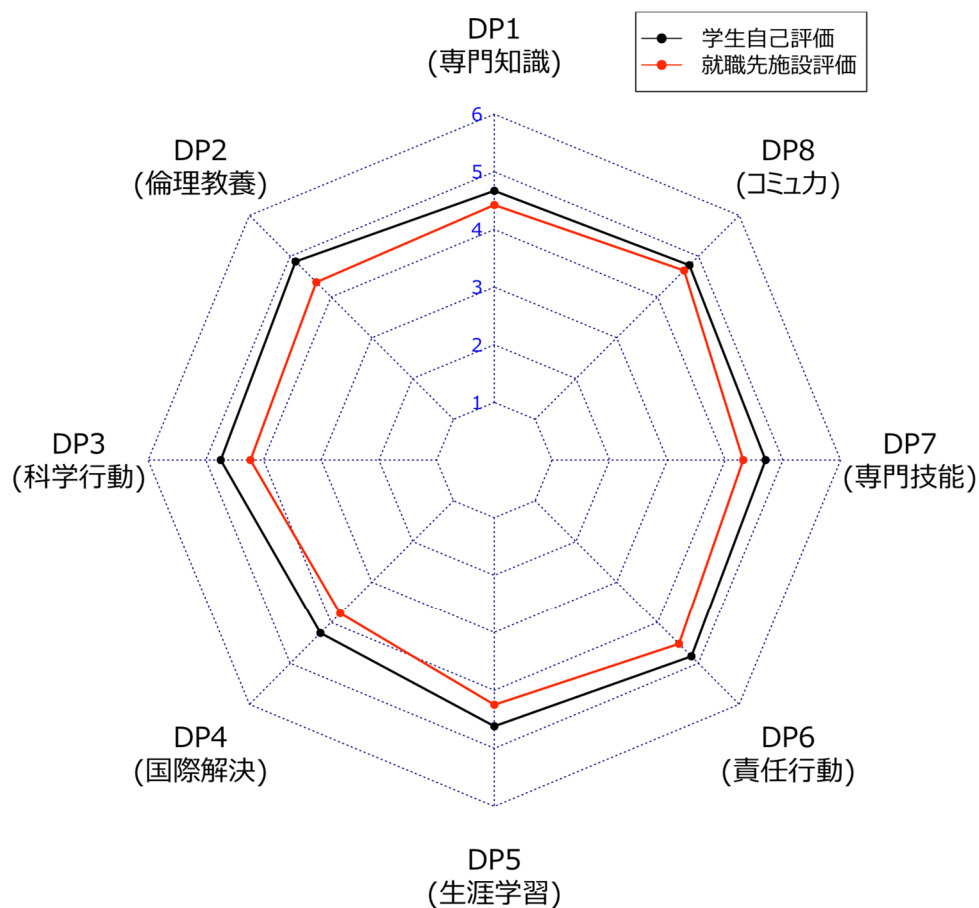
表 3－6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)				DP2 (倫理教養)			
学部	検査	放射		学部	検査	放射	
平均値	4.43	4.43	4.42	平均値	4.36	4.51	4.13
標準偏差	0.93	0.88	1.01	標準偏差	0.81	0.76	0.83
中央値	4	4	4	中央値	4	4	4
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	3	2	最小値	2	3	2
n	80	49	31	n	80	49	31

DP3 (科学行動)				DP4 (国際解決)			
学部	検査	放射		学部	検査	放射	
平均値	4.23	4.31	4.10	平均値	3.78	3.88	3.61
標準偏差	0.89	0.86	0.93	標準偏差	0.92	0.98	0.79
中央値	4	4	4	中央値	4	4	4
最大値	6	6	6	最大値	6	6	5
最小値	2	2	2	最小値	2	2	2
n	80	49	31	n	80	49	31

DP5 (生涯学習)				DP6 (責任行動)			
学部	検査	放射		学部	検査	放射	
平均値	4.25	4.31	4.16	平均値	4.53	4.59	4.42
標準偏差	0.94	0.95	0.92	標準偏差	0.91	0.88	0.94
中央値	4	4	4	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	2	最小値	2	2	2
n	80	49	31	n	80	49	31

DP7 (専門技能)				DP8 (コミュ力)			
学部	検査	放射		学部	検査	放射	
平均値	4.31	4.41	4.16	平均値	4.65	4.71	4.55
標準偏差	0.90	0.92	0.85	標準偏差	0.95	0.86	1.07
中央値	4	4	4	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	2	最小値	2	3	2
n	80	49	31	n	80	49	31



医療科学部	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.43	4.36	4.23	3.78	4.25	4.53	4.31	4.65
学生自己評価 b	4.67	4.87	4.74	4.26	4.62	4.83	4.70	4.78
差 a-b	-0.25	-0.51	-0.52	-0.48	-0.37	-0.30	-0.38	-0.13

図 3－3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評価値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

医療科学部の 2022 年度卒業生を対象とした、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は 8 項目で大きな差はなく（平均値 4.32 ± 0.94 ）、最も評価が高かったのは「DP8：コミュ力」の 4.65 ± 0.95 であり、最も評価が低かった項目は「DP4：国際解決」の 3.78 ± 0.92 であった（表 3-6）。これは昨年度調査と同様の結果であった。また各設問の中央値はすべて「4：最低水準は修得できている」以上であり、「DP6：責任行動」「DP8：コミュ力」では中央値が「5：概ね修得できている」となった。昨年度は全項目の中央値が「4：最低水準は修得できている」であり、高評価の施設の割合が若干増加した。

「4：最低水準は修得できている」以上と評価した施設の割合が最も多かったのは「DP2：倫理教養」の 90.0% (72/80 件) であり、次いで「DP6：責任行動」88.8% (71/80 件)、「DP1：専門知識」87.5% (70/80 件) および「DP8：コミュ力」87.5% (70/80 件) であった（図 3-2 および表 3-5）。一方、「DP4：国際解決」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が 41.3% (33/80 件) と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP1～DP8 の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べて 0.13～0.52（平均 0.37）低い傾向を示した。昨年度調査においても同様の傾向を示しており、若干ではあるものの就職先管理者の評価基準は厳しく設定されている（逆に言えば、学生の評価基準が甘い）ことが推察される。しかし、1 点以上の差は無いことから、学生自己評価と就職先管理者による評価に大きな相違はないと判断できると考える（図 3-3）。

また、今年度調査では評価協力施設に対し、「2：十分に修得できていない」以下の回答をする場合にその理由を自由回答するよう設定した。医療科学部調査においては回答が得られなかったが、保健衛生学部では「就職初年次であり、国際的視野などの点を評価できるような業務に従事させていない」という趣旨の回答があり、評価不能な設問に対して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以上の選択はできず、結果として「2：十分に修得できていない」を選択していることが推察された。就職先施設管理者の評価基準が厳しい面があることに加え、評価不能との判断からも「DP4：国際解決」でかなり低い評価が出ている可能性があると考えられる。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図 3-4 に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図 3-5 に示す。

DP1～DP8 に対する医療検査学科と放射線学科における評価は、ほぼ同様な分布を示した（図 3-4）。医療検査学科よりも放射線学科の方が若干、低い評価の割合が大きい傾向を示した（図 3-5）。全項目に対する「4：最低水準は修得できている」以上の評価の割合は、医療検査学科が 85.2% であったのに対し、放射線学科では 77.8% であった。これは昨年度と同様の傾向であった。

DP1～DP8 の評価の中央値は、2 学科ともに「4：最低水準は修得できている」以上で、

「DP6：責任行動」「DP8：コミュカ」では中央値が「5：概ね修得できている」となった。

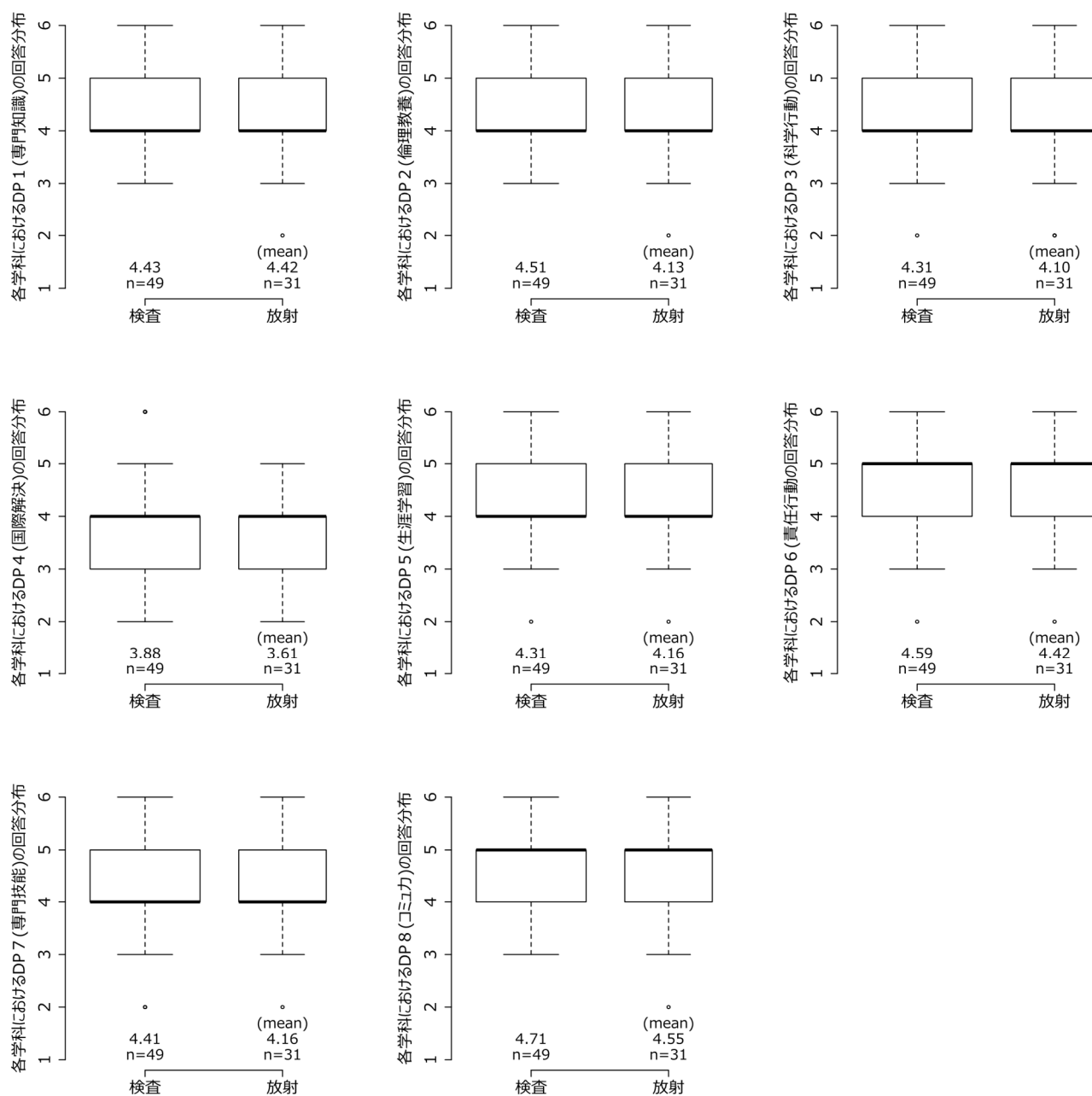


図3－4．医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

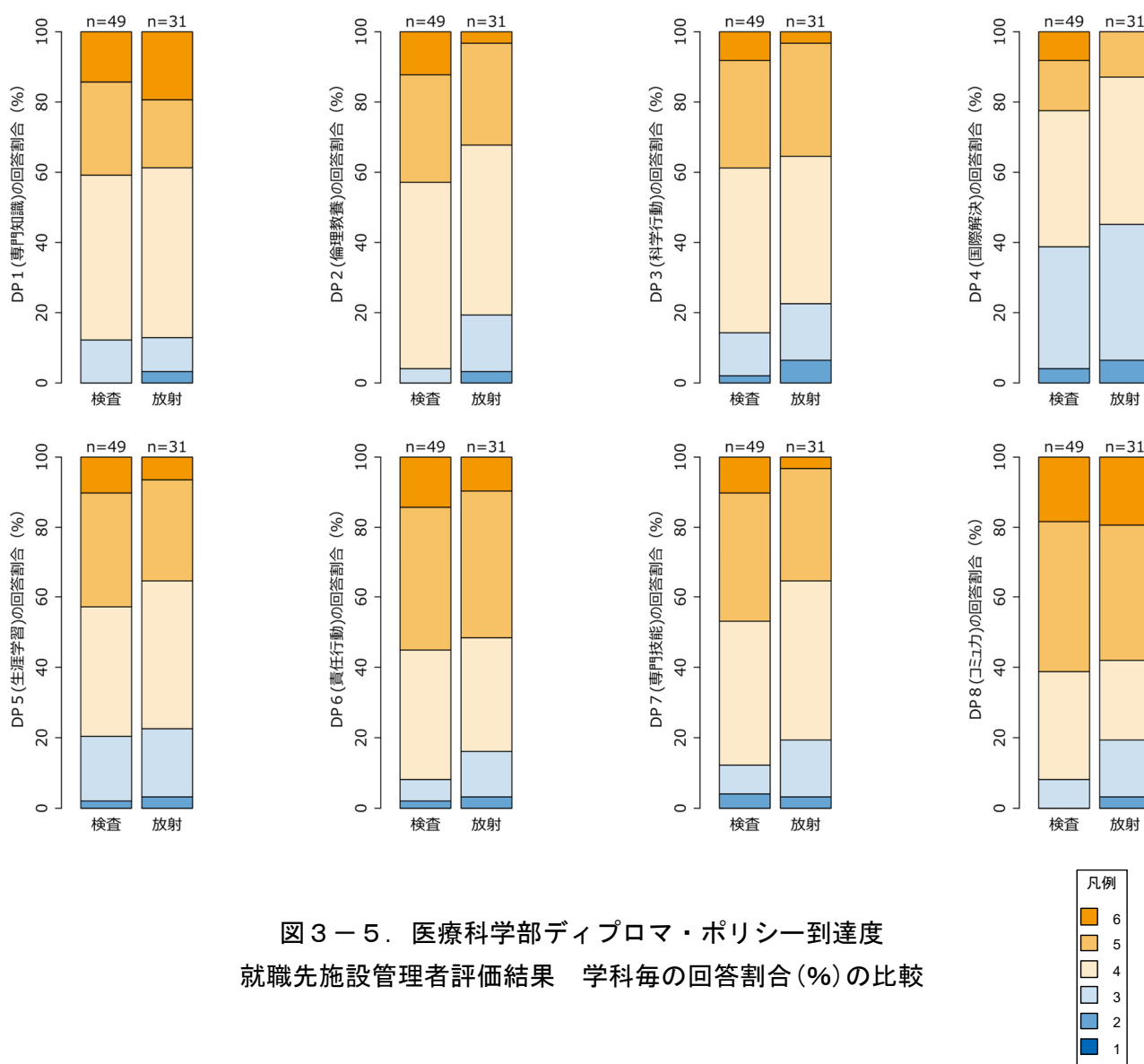


図3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 医療検査学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と医療検査学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における医療検査学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等の値であった。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。

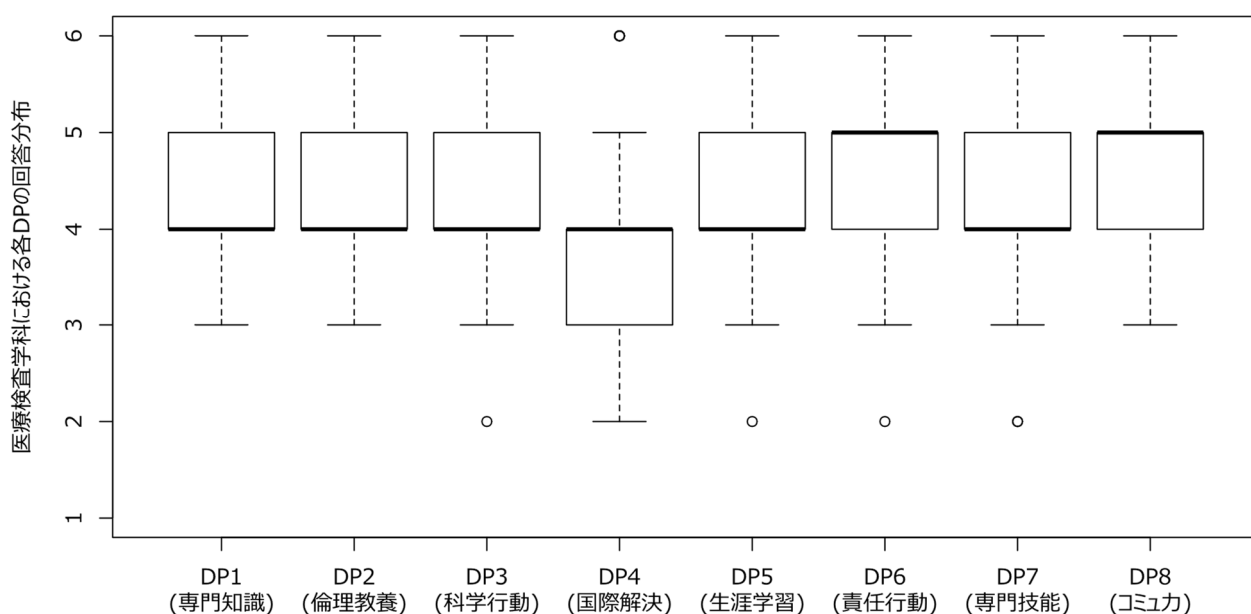


図3-6. 医療検査学科の回答分布

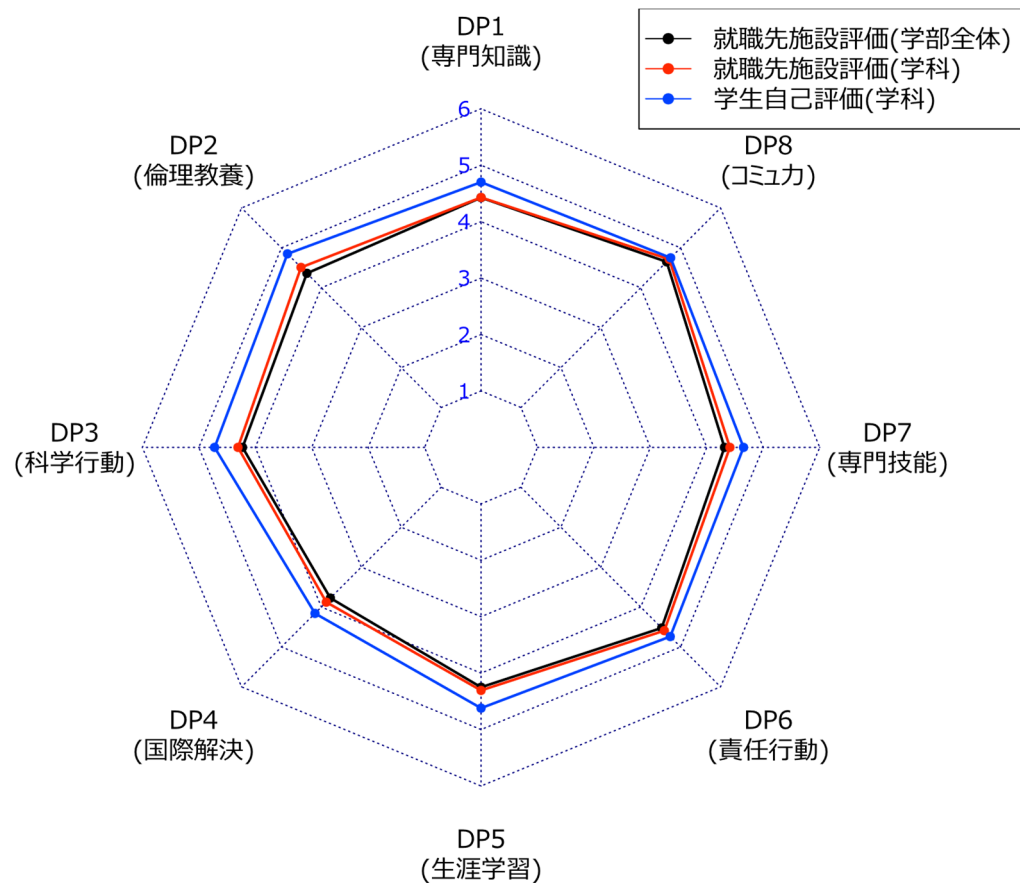


図 3－7．回答結果の医療検査学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等の値であったが、医療検査学科と比べてやや差が大きい（放射線学科評価の方が低い値の評価）傾向を示した。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。

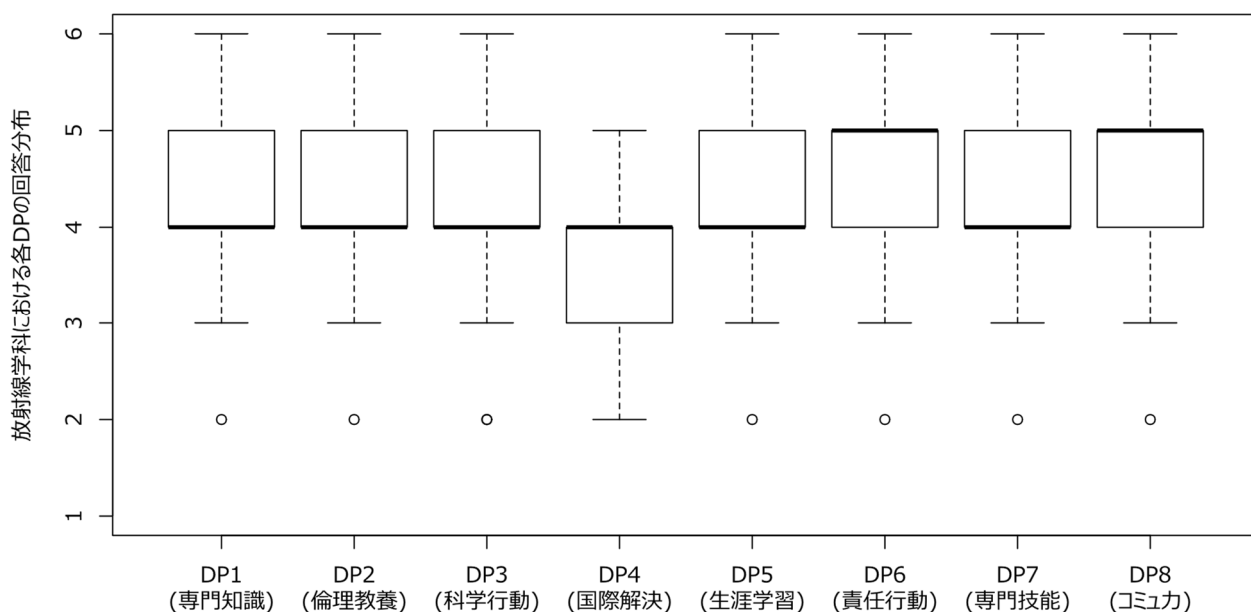


図3-8. 放射線学科の回答分布

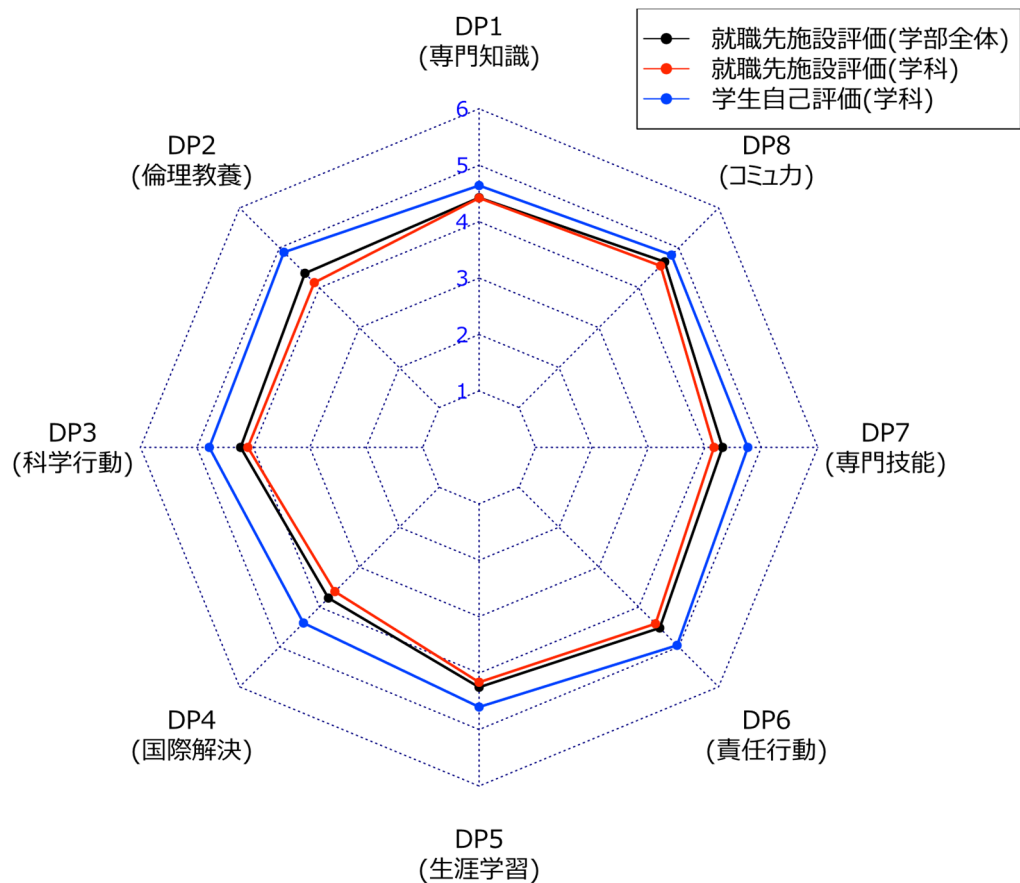


図 3－9．回答結果の放射線学科と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の2022年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式またはWeb回答方式（Google フォームを利用）のいずれかで、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者（2022年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）は、医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である（表3-1）。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である（表3-3）。2022年度医療科学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況（各学科ディプロマ・ポリシー）

卒業生の学科	対象施設	回答施設	回収率	退職理由 の未回答
医療検査学科（臨床検査）	58	35	60.3%	1
放射線学科	52	31	59.6%	0
合計	110	66	60.0%	1

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 医療検査学科

アンケート調査項目（医療検査学科ディプロマ・ポリシー）を表4-2に示す。

2022年度医療検査学科卒業生を対象とした医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2022年度医療検査学科卒業生の医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価平均値4.34であり、「DP2：倫理責任」の評価の中央値は「5：概ね修得できている」、その他の項目全ての評価の中央値は「4：最低水準は修得できた」であった。上述の結果より、2022年度卒業生は最低限、学科ディプロマ・ポリシーを達成できていることが明らかとなった。評価が高い順に、「DP2：倫理責任」（平均値4.66、中央値5）、「DP1：知識技能」（平均値4.49、中央値4）、「DP3：チーム医療」（平均値4.40、中央値4）、「DP5：

生涯学習」(平均値 4.40、中央値 4)、「DP7：判断解決」(平均値 4.20、中央値 4)であり、もっとも評価が低くなったのは「DP6：国際探求」(平均値 3.94、中央値 4)であった。DP6では「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価が 28.6%であった。なお、DP1～DP7 の全項目において「1：全く修得できていない」と回答した施設は無かった。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが学生の自己評価値より低い傾向にあった。最も差が大きくなったのは「DP7：判断決断」であった。就職先施設評価値が最も高かった「DP2：倫理責任」では、学生自己評価との差が最も小さくなった。これらは昨年度と全く同様の結果であった。

表 4-2. アンケート調査の設問項目 (医療検査学科ディプロマ・ポリシー)

DP1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についていますか？
DP2 (倫理責任)	生命の尊さを深く理解し、医療人として高い倫理観と責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになっていきますか？
DP3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになっていきますか？
DP4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになっていきますか？
DP5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていきますか？
DP6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意思と積極性が身についていますか？
DP7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についていますか？

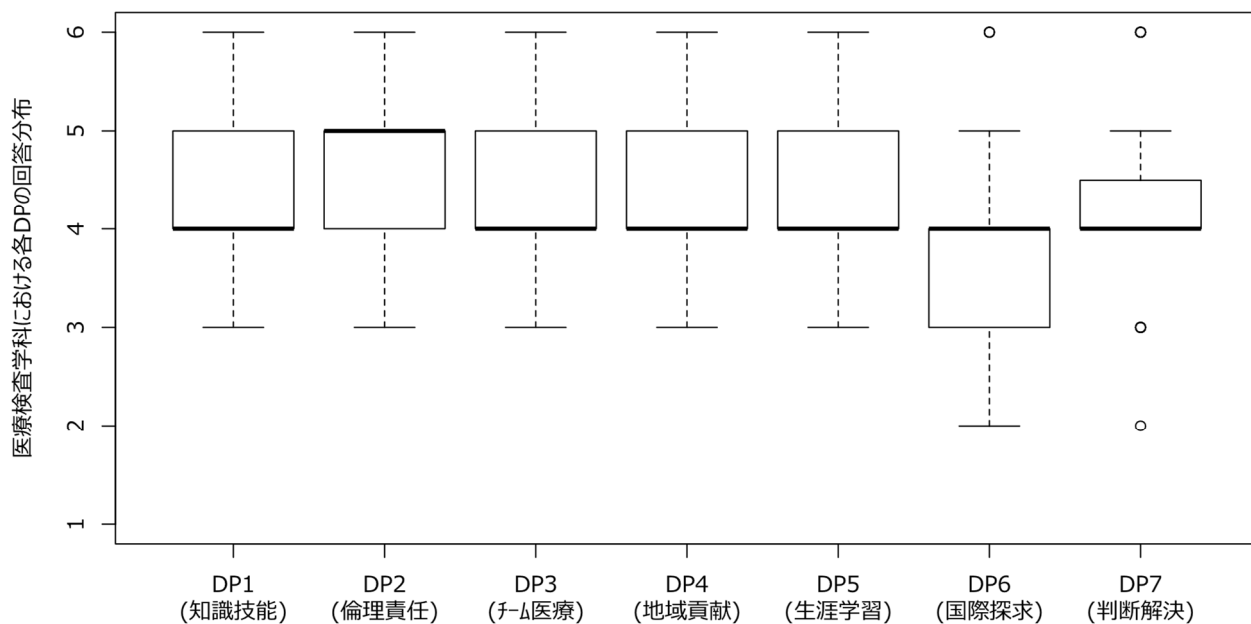


図 4－1．医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

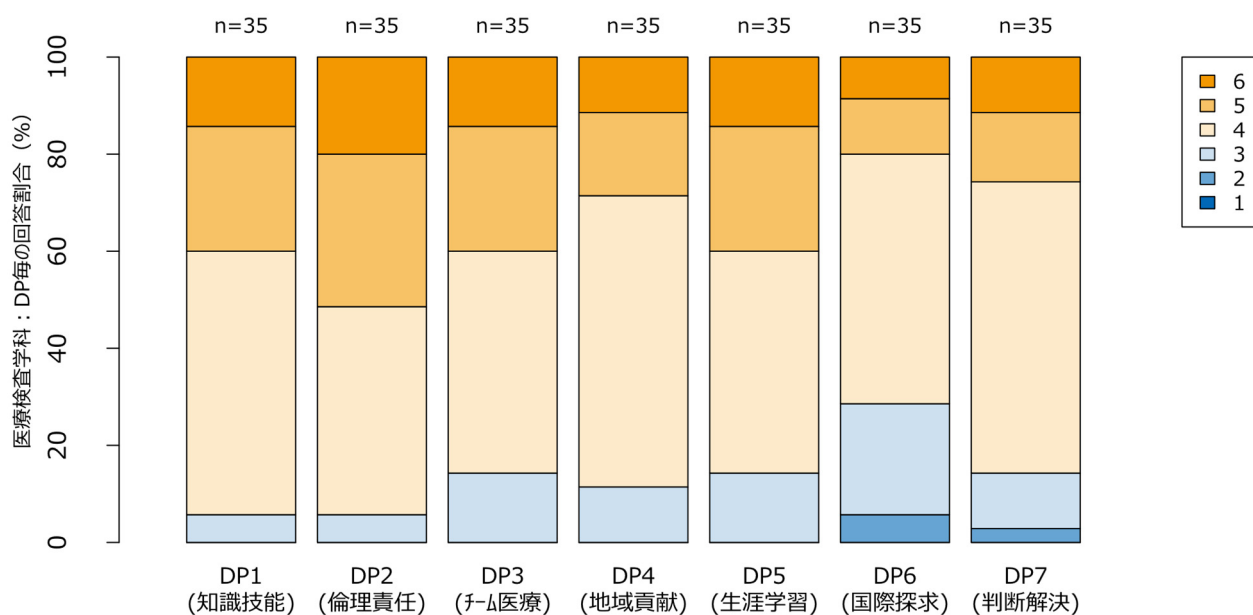


図 4－2．医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3．医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.49	4.66	4.40	4.29	4.40	3.94	4.20
標準偏差	0.81	0.86	0.90	0.81	0.90	0.95	0.89
中央値	4	5	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	3	3	2	2
n	35	35	35	35	35	35	35

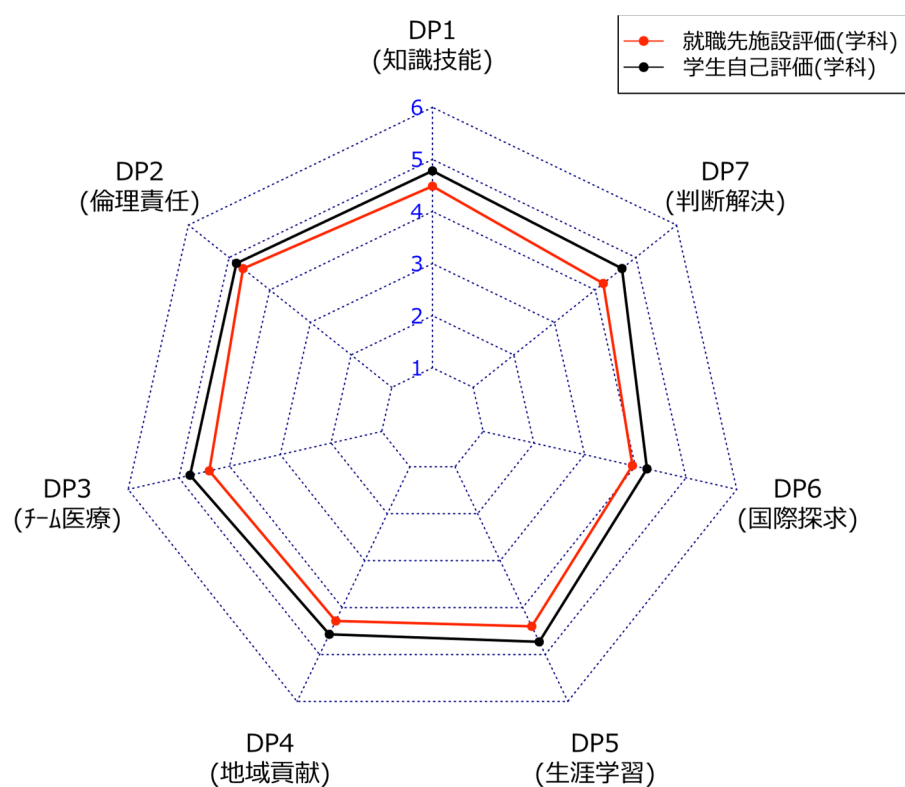


図 4－3．医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2022年度放射線学科卒業生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2022年度放射線学科卒業生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、すべての項目について中央値が「4：最低水準は修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーはおおむね最低限達成できている状況と判断できる。評価が高い順に、「DP1：倫理態度」（平均値 4.55、中央値 4）、「DP2：チーム医療」（平均値 4.19、中央値 4）、「DP3：知識技能」（平均値 4.03、中央値 4）、「DP4：課題解決」（平均値 3.97、中央値 4）であり、もっとも評価が低くなったのは「DP5：国際探求」（平均値 3.74、中央値 4）であった。「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価の割合は、DP5で35.5%、DP2で32.3%、DP4で29.0%と約3割に及んだ。なお、DP1～DP5の全項目において「1：全く修得できていない」と回答した施設は無かった。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが低い傾向を示した。その差はおおよそ-0.5点程であり、「DP5：国際探求」が-0.64と最も差が大きかった。

表4-4. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣い、および洗練された礼節が身についていますか？
DP2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身についていますか？
DP3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身についていますか？
DP4 (課題解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになっていますか？
DP5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身についていますか？

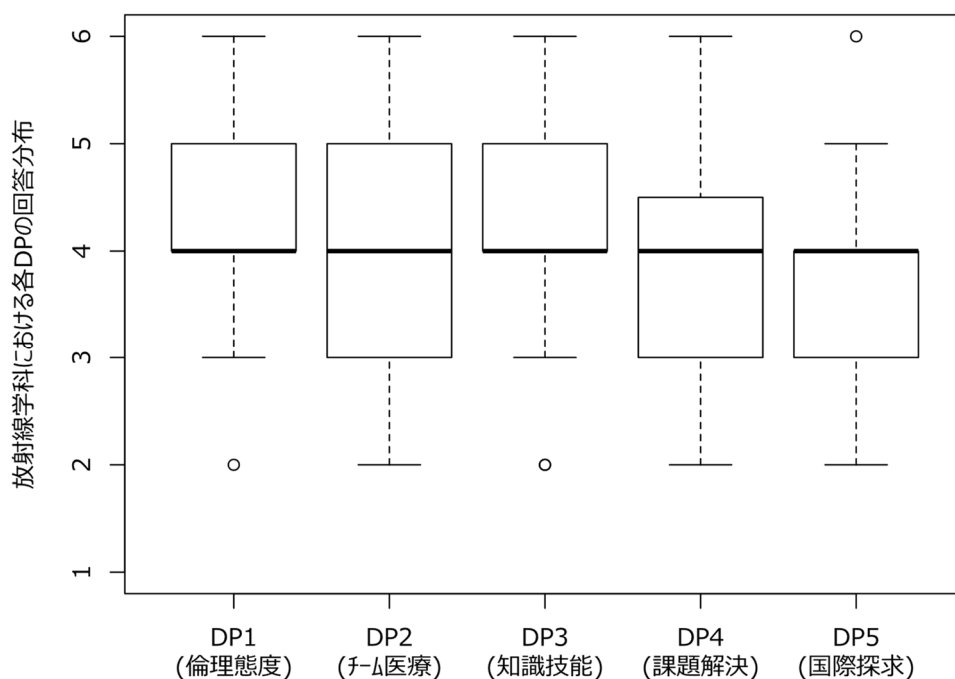


図4-4. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

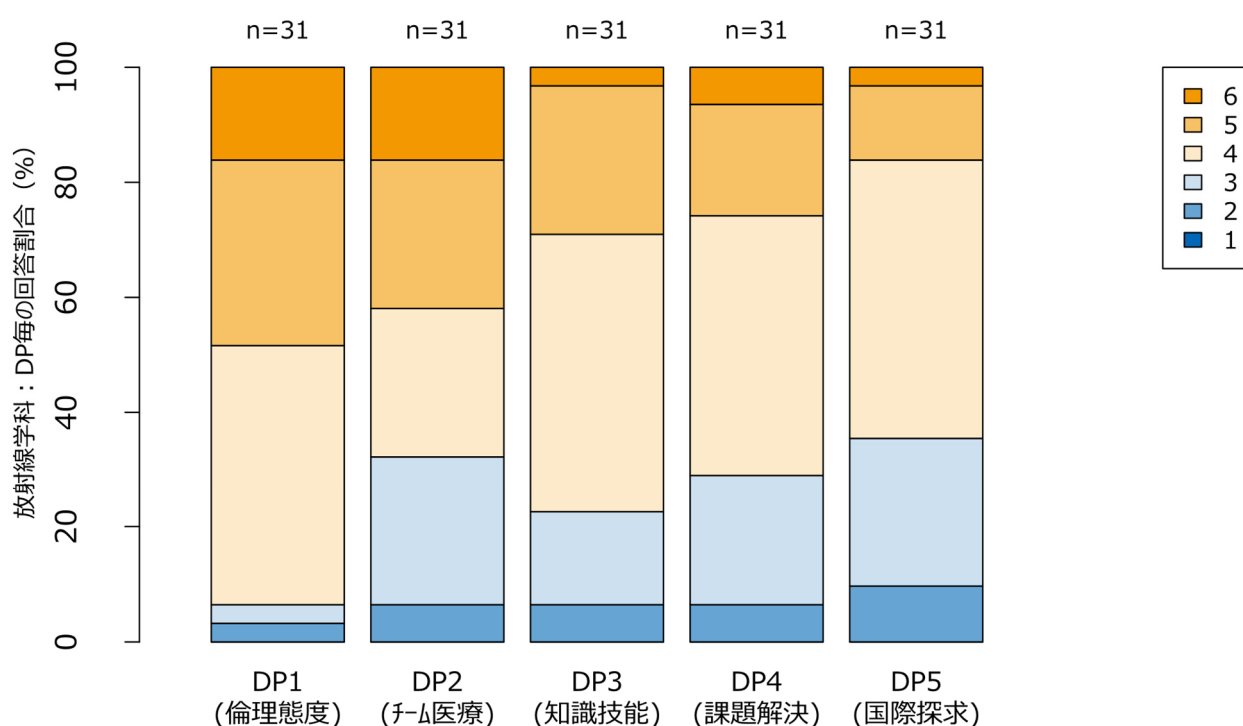
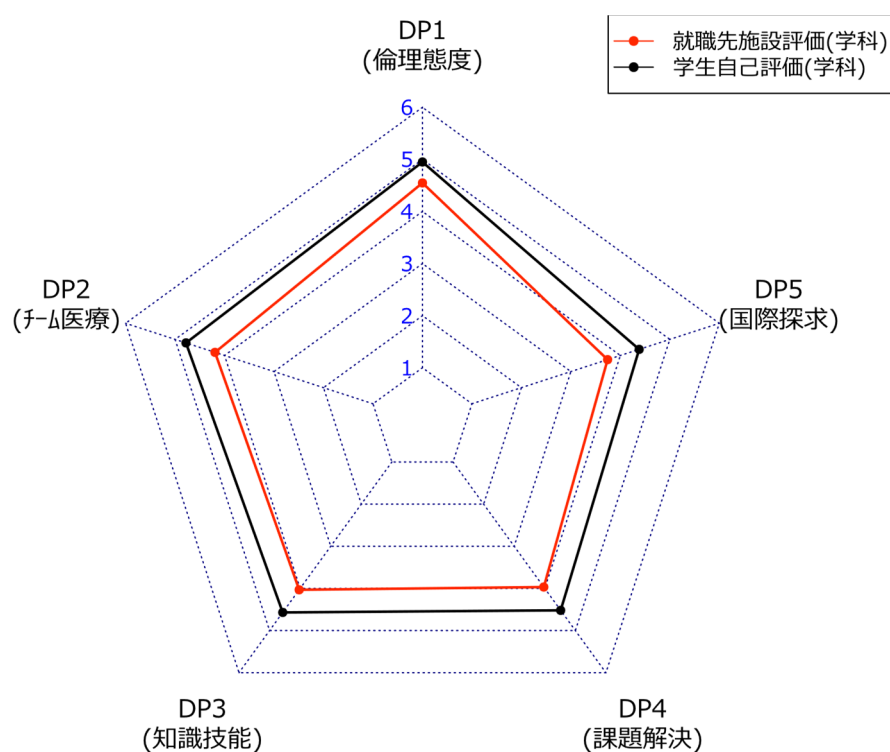


図4-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表4-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	4.55	4.19	4.03	3.97	3.74
標準偏差	0.91	1.18	0.90	0.97	0.91
中央値	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2
n	31	31	31	31	31



放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
就職先施設評価 a	4.55	4.19	4.03	3.97	3.74
学生自己評価 b	4.95	4.78	4.57	4.52	4.38
差 a-b	-0.40	-0.59	-0.54	-0.55	-0.64

図 4－6．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評価値の平均値

5. 参考資料

2022 年度医療科学部卒業生(臨床検査・放射線の各学科)の就職先施設に対し、図5－1 示す調査依頼状を送付し、医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

●●●●●●●●●●病院

採用ご担当者様

藤田医科大学

医療科学部 学部長 齋藤 邦明

IR 推進センター長 大田 充彦

2023 年 8 月吉日

藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート

ディプロマ・ポリシーに関する調査のお願い (依頼書)

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深く御礼申し上げます。さて、本年度までにご採用頂きました本学の医療科学部卒業生(臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科)を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の医療科学部及び学科別の教育理念(ディプロマ・ポリシー)について、これらの素養が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身につけているか、就職先である各施設より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に4年間を振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後数箇月～数年経過したこの時点で、本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますよう、お取り計らい頂ければ幸いです。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

記

調査内容：本学卒業生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査

回答期間：本書到着日～2023年9月30日(土)

調査対象：2023年4月入職者(2023年3月卒業生)

同一学科(同一職種)で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答

同封書類：
1. Google フォームによる WEB 回答のご案内
2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー調査内容
3. 各種ディプロマ・ポリシー調査内容

以上

お問い合わせ窓口：
藤田医科大学 事務局 学務部
学生支援課 キャリア支援担当
(TEL.0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

■Google フォームによる WEB 回答のご案内■

本学では SDG s 推進、環境負荷低減、コスト削減の観点からペーパーレス化を推進しております。調査回答につきましては、ご案内の URL または、以下の QR コードをスマートフォン等から読み取りご回答をお願いいたします。

対象職種

調査回答 URL

調査回答 QR コード

臨床検査技師

<https://forms.gle/wGw81KzKtLbeBH3s6>



診療放射線技師

<https://forms.gle/Kup4p5bWvP4uH619>



臨床工技士

<https://forms.gle/avvjfQLUN2ho7xq5>



図5－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文(医療検査学科・放射線学科)